



# 碧南ロータリークラブ週報

第2655回例会 平成25年9月11日(水)

- 会長 長田 豊治
- 幹事 岡本 明弘
- 会場監督(SAA) 角谷 信二

2013-2014 年度 国際ロータリーのテーマ

- 例会日 毎週水曜日 12:30
- 事務局 碧南商工会議所内 TEL<0566>41-1100
- 例会場 碧南商工会議所ホール 〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町 90 FAX<0566>48-1100
- ホームページ: <http://www.hekinan-rc.jp>
- E-mail: [info@hekinan-rc.jp](mailto:info@hekinan-rc.jp)



- 会報委員 鈴木泰博・奥津順司・杉浦栄次

## ● 斉 唱

ロータリーソング「我等の生業」

## ● 本日のメニュー

和風弁当 大正館

## ● 本日のお客様

安城RC 加藤英明様

## 会 長 挨拶

いよいよ秋の気配が深くなって参りました。

秋といえば、食欲の秋かスポーツの秋です。2020年の東京オリンピックが決定致しました。1964年の東京オリンピックは10月10日の開会式であったと思います。当時は高校生で聖火リレーを見学応援したものです。49年前で紅顔の美少年であったころです。



長田豊治会長

経済効果が3兆円ともいわれておりますが、7年先のオリンピック開催時には福島も含め、安心安全な日本であってほしいと願っております。

秋といえば菊、花札には杯と一緒に菊が描かれております。もちろん長月 9月です。

9月9日は奇数が縁起のよい「陽の数」とされ、中でも最大の「陽の数」である9が重なる日を重陽と呼び、重陽の節句は縁起のよい旧暦9月9日です。

菊を飾り、菊酒を呑み、後の雛祭りとして3月3日の節句に飾った雛人形を、虫干しを兼ねて再び飾り、長寿の願いを込めるというものです。俳譜の世界では、「後の雛」が9月の季語となり、風雅な習わしとして詠み伝えられました。

酒飲みとしては、「菊に盃」の組み合わせは、菊の露を盃に集めて飲み続けると不老長寿になるといわれ、また、9月9日の重陽の節共に、盃に菊の花びらを浮かべた酒を飲むと不老

長寿が叶うとも伝えられています。菊に盃は欠かせないという事です。

花札遊びでは、「サクラと幔幕」または、「薄に満月」の20点札と、この「菊に盃」の札が揃うと、「花見に一杯」、「月見に一杯」という縁起のよい役が付き、大儲けになるのです。

## 幹 事 報 告

本日の幹事報告は4点ほどございます。

- ・ 第3回理事会報告、例会変更等は幹事報告書の通りでございますので、ご一読お願い致します。
- ・ 今年2月に申請しました、地区の補助金が8月2日に入金されました。3644ドル、日本円で約36万円です。
- ・ メールボックスに入れておきました、ガバナー訪問、ならびにインフォーマルミーティングのご案内です。9月22日はガバナー補佐訪問です。10月がガバナー訪問です。ガバナー訪問は10月15日に衣浦グランドホテルで高浜RCさんと合同で開催致します。翌週の10月23日がインフォーマルミーティングで、商工会議所で18時から開催致します。ご出席の方、よろしくお願い致します。
- ・ ワールドフード触れ合いフェスタのご案内です。ホワイトボードに詳細文が掲載されます。名古屋和合RCさんが11月2～4日に、久屋大通でチャリティーイベントを行います。それに地区が支援します。ポリオ撲滅で、様々な資料を一般市民に公開してロータリーの公共イメージを図る事です。ご興味のある方は9月18日までに事務局までお申込をさせて頂きますよう、お願い致します。



岡本明弘幹事

## 委 員 会 報 告

### <出席奨励委員会>

総会員数 66 名 (内出席免除者 9 名の内出席者 8 名)出席者 50 名	
出席対象者 50/65 名	出席率 76.92%
欠席者 16 名(病欠者 0 名)	前々回修正出席率 98.41%

※三週連続出席率 100%の場合は記念品を差し上げます。

### <ニコボックス委員会>

榊原 健君 2020年東京オリンピック、パラリンピック開催決定しました。万歳！これでボール競技は全て出場出来ます。プレゼン、素晴らしいものでした。スポーツ万歳。

平松 則行君 本日“私の履歴書”を発表させていただきます。

渡 辺 君 いつもありがとうございます。話し下手ですが宜しくお願いします。

岡本 彰人君 本日は宜しくお願いします。

## クラブフォーラム

### 「私の履歴書」 新入会員 平松則行君



平松則行君

私、平松は昨年3月に鈴木並男さんのご紹介で、この会に参加させて頂きました。皆様のご承諾を頂きまして、この会に入会できた事を喜んでおります。

私は、昭和23年の5月25日に碧南の北新川地区で生まれました。ちょうどその頃、碧南市市制が施行になりまして、碧南市と同じ65歳という事になります。

私が生まれた年の5月は、メンバーの鈴木きよみさん、榊原健さんと数日違いでほぼ同じ時期に生まれました。

タイヤ専門店知多ゴムをやっておりまして、父が昭和13年に創業致しました。そこの長男として生まれ、毎日ゴムの臭いのする中で育ちました。中学に入学後、家族に不幸が訪れまして、父が脳腫瘍にかかり他界しました。

当時、住み込みの従業員が2名ほどいまして、母親が従業員にうまくお願いする形で営業は成り立っておりましたが、夜になると従業員といつもいざこざがありました。その後家族会議という名の愚痴が始まりまして、やはり女性では厳しい部分があったようです。中学を卒業して平松家を継ぐという強い気持ちがありました。ところが、母親がせめて高校はと言ってくれたので、刈谷工業高校の自動車科へ先生の勧めもあって行きました。従業員さんが毎日仕事してくれているので、私が学校へ行く前、帰ってきた後、手伝うというのが自分の中で義務化されていました。

当時の刈谷工業はおもしろく、校内に自動車練習場がありました。私は岡崎で免許を取得したのですが、高校でありながら有給で試験のために休む事ができました。在校生で一番早く免許をとれましたので、学校内では私が教官の立場になって助手席に乗り同級生の練習を見る、といった楽しみもありました。

そんな中、高校3年生の夏休みに全従業員が辞めてしまいまして、休み明けの9月に学校へ相談しました。2、3学期は休み休みで出席日数を足りてなかったのですが、学校の好意で卒業させて頂きました。

卒業後、実家を継いだのですが、すぐに手首腱鞘炎、脊間板ヘルニア、胃潰瘍で入院とあまり体が丈夫な方ではなかったもので、病気にかかってしまいました。入院中にこのままでは体に負担がかかり機械化できないかと思い、クレーンでタイヤを扱う、建設用大型タイヤ専門の別会社を立上げました。それが現在の三州ORタイヤに至って下ります。

個人会社でやっておりました知多ゴムを法人に改組して、株式会社知多ゴムで現在に至ります。

その後JCに入会し、多くの方々によくして頂きました。

本日は私の人生論をお聞き頂きまして、ありがとうございました。

## 「私の履歴書」 新入会員 岡本彰人君



岡本彰人君

まずは私の生い立ちをお話する前に、歴史の長い我が社の経緯についてお話をさせていただきます。

一心舎は私の曾祖父である、與一郎が碧南の大浜の地で起こしました。もともとは造船業を営んでおり、造船の技術向上のため、渡米していたので英語は堪能だったようです。ここにお見えになる加藤丈太郎先生も、曾祖父に英語を教えてもらったと聞いております。

造船での営みが困難となり、大正6年に一心舎と創業し、謄写版業に身をおく事となりました。謄写版印刷とは、スリ板の上に乗せたロウ原紙に鉄筆で字を書いた印刷原稿を使って行う、簡易印刷の事です。この印刷で使用するロウ原紙に様々な改良を加えて、一心舎の看板商品となる「ハート原紙」を開発しました。

一心になって何事にも打ち込み、一心になって考え得たものがこのハート原紙だったので、一心舎の名前に込められた思いは、自分の本分をつくす事に一心になる、事からきています。

一心舎は與一郎の長男が引き継ぎましたが、昭和62年で廃業となります。次男であった祖父が大正13年に一心舎研究部を起こし、謄写版の技術講習会を行い、謄写版の普及に努めていたようです。そして、昭和10年に合資会社一心舎印刷所を起業しました。

その後、父に引き継がれまして、営業・現場・会社の采配を一人でやりくりしていた父でしたが、忙しい合間をぬって家族を色々な所へ連れて行ってくれました。共に富士山に出かけた事は父との思い出となっております。

平成21年に父が他界した後、自分が一心舎の代表として経営に携わるようになると父の偉大さを日に日に感じます。

ここから少しずつ生い立ちについてお話させていただきます。

私は昭和46年6月29日に碧南の地で生まれ育ちました。

小中学校と野球一筋に打ち込んで、中学ではキャプテンも務めました。当時の「キャプテン」という野球漫画の主人公だった谷口君の「かげの努力」に感銘を受け、自分も一生懸命「かげの努力」に励んでいました。

高校は刈谷高校に進学し、野球部には入りましたが残念ながら最後まで続ける事ができませんでした。しかし、野球を通じて得た友は今でもかけがえのない存在です。

大学は北陸の金沢経済大学に進学し、ドラマの「スクール・ウォーズ」の影響を受け、ラグビーがやりたかったのですが、ラグビー部がなく断念し、雰囲気も似ているのでアメフト部に入部しました。4年の最後の大会では強豪の金沢大学を倒す事ができ、北陸で優勝する事ができました。

卒業後は他の印刷会社で修行し、技術の多くを学びました。28歳で碧南に戻り一心舎に入りました。29歳で妻の佳美と結婚して翌年長女が生まれました。

2004年には碧南JCに入会し、8年間のJCライフを送りました。大きな失敗をしてつらい思いもしましたが、多くを学べたと思います。

入会して最初に参加させて頂いた時の家族会で、長田会長が劇団四季の前のコンビニにお孫さんへのおみやげを買いに行かれました。その時に自分と共感できる場所を知り、何だか嬉しい気持ちになりました。

家族への愛は人それぞれ表現の仕方が違います。ちょっとした心遣いがお互いの気持ちをハッピーにしてくれるように、RCへ入会して会員の奥さんの誕生日や結婚記念日を祝う事にも非常に感銘を受けました。

そんなRCに入会できた事をとて光榮に思います。今後ともよろしくお願い致します。

### 次回例会案内

平成25年9月25日（水） ガバナー補佐訪問

平成25年10月2日（水）

クラブフォーラム 「米山記念奨学委員会」